

第109号

酪農

とちぎ



ふれあい牧場のも〜も〜ちゃん

「キャラクター^{えみ}笑味ちゃん」



みんなのよい食プロジェクト

- 1 ページ 表紙
- 2～5 ページ 令和元年度上半期事業実績（各部門）
- 6～8 ページ 東西南北（各支所）
- 9 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 10 ページ 理事会だより、お礼、お知らせ、市場成績



令和元年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は3億7632万円（計画比105・6%）となり、事業利益においては計画差3054万増、経常利益においても計画差3136万増の実績になりました。

大きく計画を上回った要因は、購買事業において全酪連等からの配当金が計画外にあったためであり、それらを修正した場合は経常利益で776万程計画を上回る状況となります。

下半期も2カ月を過ぎますが各事業、計画達成に向け事業を推進して参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

一、生乳受託事業

生産状況等について

生乳生産量は第一四半期にお

て計画比100・7%と順調な生産となり、7月も長梅雨による低温の影響もあり計画を上回る生産となりました。しかし、梅雨明けと同時に猛暑日が続いたため、8月単月の生産量は計画比95・1%と大きく下回りました。9月は一定の回復もありましたが、計画比99・0%となりました。

その結果、上半期の生産量は11万7061t（前年比99・6%、計画比99・5%）と若干計画数量を下回る生産となりました。

また、生乳販売高は本年4月からの飲用・はっ酵向け乳価改定や、関東生乳販連の特定乳製品向けが前年比96・0%と減少したことに加え、加工率が0・04%前年を下回ったことから、販売単価が上昇し、136億2394万円（前年比102・6%、計画比99・9%）の実績となりました。

尚、自主申告による上半期の生

乳委託予定数量は11万9175t（402戸）であり、出荷実績との対比は98・2%となりました。

乳質について

乳脂肪率は、昨年を若干上回る結果となりましたが、猛暑の影響から7月下旬～9月中旬にかけ低下し受送乳業務に支障を来す路線が散見されました。無脂乳固形率は、6月迄は前年並みで推移。7月は低温により前年を上回り、8月～9月は猛暑の影響もあり前年を下回りました。体細胞数は本年1月以降前年を下回る値となりました。

また、上半期の不合格件数は毎月前年同月を下回る状況となったため、合計で535件、前年を98件下回る件数となりました。

生乳生産管理チェックシートの完全定着化については、重点項目の未記帳者を0件と目標を継続することができました。

尚、不良乳の発生は7件（異物混入 抗菌性物質6件、血乳1件）

となり前年を6件上回りました。

奨励金について

需要期出荷奨励金は1億2293万円（前年比99・6%、計画比99・1%）で、需要期優良生乳出荷奨励金は該当率23・3%、3521万円（前年比140・3%、計画比98・3%）の実績でした。

二、購買事業

上半期の飼料供給量は、濃厚飼料においては3万9088トン（計画比100・2%）と計画通りの供給量となりました。しかし粗飼料においては、稲WCSの供給が下期での供給になった事や固形粗飼料についてもTMR等へのメニュー変更等により、粗飼料においては1万5555トン（計画比95・8%）と計画を下回る実績となりました。

そのような状況下で、利用量別奨励金を配合飼料1億981万円、粗飼料1339万円、TMR等969万円、総額で



1億3290万円（計画比100・1%）を支払うことが出来ました。

事業収支においては、計画外の利用高配当金等があったことにより1億1279万円（計画比124・1%）となりました。

三、酪農指導及び流通事業

酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援にも努めてまいりました。

まず、飼養管理改善の指導支援については、乳質向上に向けて351件の指導や相談を行いました。その中でラクトコーダーを利用した搾乳状況の点検、機器の洗浄状態の確認を行い、その結果に伴う改善策の提案を行いました。また、バルクスクリーニング検査の結果から個体乳の検査、分房別の検査を行い体細胞数の低減に取

り組みました。搾乳立会を適宜行い、搾乳手順の確認や搾乳衛生に関するアドバイス等を通して、乳質改善や飼養管理の向上を図りました。

次に、補助事業関連については、個々の経営安定向上を目的として各種事業に取組みました。畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業（89戸）をはじめ、中小酪農経

営等生産基盤維持・強化対策事業（149戸）、畜産・酪農生産力強化対策事業（139戸）、環境負荷軽減型酪農経営支援事業（88戸）に取り組みました。また、公社営事業や畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業（クラスター事業）による規模拡大に対応して、関係機関や金融機関との協議を行いました。

良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた取り組みについては、農作業受委託検討会を開催し、既存組織の受託状況の把握と新たな組織の立ち上げ支援について検討いたしました。今のところ新たな組織の立ち上げに向けた動きはありませんが、各支所、各地域の実情、要望を把握し引き続き既存組織の支援を行うこととしました。また、

令和元年上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳販売	収益	15,195,086	15,166,715	▲ 28,370	99.8
	費用	14,955,075	14,929,408	▲ 25,666	99.8
	利益	240,011	237,307	▲ 2,703	98.9
購買	収益	3,983,680	3,913,391	▲ 70,288	98.2
	費用	3,892,820	3,800,599	▲ 92,220	97.6
	利益	90,860	112,792	21,932	124.1
酪農指導	収益	106,403	106,590	187	100.2
	費用	116,573	114,444	▲ 2,128	98.2
	利益	▲ 10,170	▲ 7,853	2,316	-
流通	収益	224,228	258,964	34,736	115.5
	費用	223,664	258,380	34,716	115.5
	利益	564	584	20	103.5
改良	収益	196,176	159,117	▲ 37,058	81.1
	費用	182,656	145,529	▲ 37,126	79.7
	利益	13,520	13,588	68	100.5
診療	収益	22,446	21,693	▲ 752	96.6
	費用	8,363	8,215	▲ 147	98.2
	利益	14,083	13,477	▲ 605	95.7
牧場	収益	77,301	80,448	3,147	104.1
	費用	69,819	74,020	4,201	106.0
	利益	7,482	6,428	▲ 1,053	85.9
事業総収益	19,805,320	19,706,921	▲ 98,398	99.5	
事業総費用	19,448,970	19,330,597	▲ 118,372	99.4	
事業総利益	356,350	376,324	19,974	105.6	
事業管理費	360,967	350,391	▲ 10,575	97.1	
事業利益	▲ 4,617	25,932	30,549	-	
事業外収入	11,485	12,046	561	104.9	
事業外費用	5,304	5,049	▲ 254	95.2	
経常利益	1,564	32,929	31,365	2,105.4	

同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	41,885	43,480	1,595	103.8
費用	42,585	50,526	7,941	118.6
利益	▲ 700	▲ 7,046	▲ 6,346	-



酪農とちぎアグリサポートの受託面積の増加に伴い、効率的な作業が行われるように、各支所と連携して対応いたしました。更に、良質自給飼料増産プロジェクトにおいて、デントコーン畑における雑草対策と台風通過後のデントコーン収穫の注意点について文書を発信し、良質な自給飼料生産に対する啓蒙を行いました。今年度も県北を中心に放射性物質の影響による牧草の給与前検査が必要なことから、サンプル採取の巡回等を通し、安全で安心な牛乳生産に努めました。昨年試験製造を行った粃米サイレージの製造は、今年度39名の稲作農家から約120ヘクタールの粃米を買受けて約900トンのサイレージの生産を行うべく、耕種農家との打合せ会議を行い一部9月から製造を開始しました。また、面積の拡大に際して、新たに下野市に生産拠点を作り、高根沢町と2ヶ所での製造体制を整えました。また、組合員への普及を容易にするために、購

買企画課と連携して粃米サイレージ用の配合飼料の作成にも着手致しました。

担い手の確保支援については、9月に「青年部傘下のDDF(デーリー ドリーム ファーマーズ)主催のドライブデートを、男性4名女性4名の参加者を得て開催しました。このドライブデートに関してはカップリングを目的とせず、女性との接し方の実践とドライブ後も交流が続くことを目的として開催しました。参加者は、それ以降も連絡を取り合い交流を深めています。

酪農ヘルパー事業は、ヘルパーの稼働実績については、傷病利用減により計画を下回りました。今後のヘルパー制度の維持を念頭に制度改正に向けて、利用料金、ヘルパー員の賃金の改正案の作成を行い、今後各利用組合支部とヘルパー員に説明会を開催し、来年度実施に向けて準備を進めているところですが、

流通事業の預託事業は、県外預

託では、昨年来の一時的な受入中止や、早期の退牧への協力を行っている事などから頭数減を見込んでいたましたが、各牧場と連携のもと最小限の対応にとどまったことから計画を上回りました。県内預託において昨年の実績を上回ったものの、入牧前の検査で入牧不可になるなどの要因から計画を下回る結果となりました。今後においても各牧場と連携し、入牧頭数の確保や成績向上を図ってまいります。また導入事業においては、北海道の初妊牛価格が高値で推移している為、導入の実績が無かった半面、組合員間導入で離農による経産牛の販売があったため計画を上回りました。組合員間の導入では「後継牛安定確保事業」の効果もあり、余剰初妊牛の組合内での移動が行われていると考えております。

四、改良事業

凍結精液販売事業について、乳用牛はクラスター事業及び後継牛

安定確保対策事業により性別精液の利用を促進しましたが、クラスター事業補助額の削減や夏場の猛暑による授精頭数減少等により、計画を下回る実績となりました。肉用牛は人気種雄牛の確保に努め販売増を図りました。一部人氣精液の制限がありました。新規購入者の増加や、価格変更情報を早めに周知し供給に努めたことにより、計画を上回る実績となりました。凍結精液全体として、クラスター事業、後継牛安定確保対策事業等により性別別精液の利用が促進をしましたが、クラスター事業補助額の削減や夏場の授精頭数減少等により取扱精液全体は計画を下回る実績となりました。また、AI事業体をはじめ県内酪農協と共に、乳用牛精液の推奨牛を選定し推進を図りました。(実績1万8595本 計画比95・4%)

受精卵販売事業は、リピートブリーダー対策のF1受精卵の供給推進等を行ったが、乳用牛精液と同様にクラスター事業補助額の削



減により計画を下回る実績となりました。(実績1119個 計画比62・5%)

登録業務において、血統登録は自動登録へ4件の新規加入があり、事故の解消に努めてきました。結果、その他証明書も、牛群審査、牛群検査頭数の減がありましたが、消費税の改定に伴う申請件数増があり計画を上回る実績となりました。(実績2316件 計画比101・9%)

牛群検定事業や後代検定事業に対する普及支援に努めました。また、各検定組合の組合長と事務局を対象にした打合せを開催し、検定の質の向上に努めました。ゲノミック評価を、今後の乳牛改良にどのように取り入れていくかを課題として、勉強会を2回行いました。下期においても勉強会を行い、今後の改良事業においてどのような取り組みが出来るか検討し、次年度以降の計画に反映させてまいります。

五. 診療事業

繁殖検診事業は、ふれあい牧場の発情鑑定や出場前の再妊鑑が多く、計画を上回りました。(計画比102・5%)

血液検査は、依頼や必要性が少なく計画を下回りました。(計画比32・0%)

乳房炎防除事業は、バルクスクリーニング検査を全支所で取り組み、ほぼ計画通りでした。(計画比100・3%)

個体及び分房乳検査は、依頼が少なく計画を下回りました。(計画比55・1%)

受精卵移植事業の採卵は、ホルスタイン・和牛共に依頼が多く計画を上回りました。(計画比125・7%) 移植は、補助事業の和牛卵の移植が少なく計画を下回りました。(計画比87・5%)

人工授精は、夏場の検診時の同期化による授精が少なく計画を下回りました。(計画比93・4%)

証明書発行は、授精証明書の発行が多く計画を上回りました。

(108・4%)

放牧場関係は、ふれあい牧場や葛巻放牧場等の下見巡回が多く計画を上回りました。(計画比119・7%)

六. 牧場事業

牧場事業は、牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を(株)酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営が図れました。預託頭数は、預託需要が増えている状況であり、計画を上回りました。(計画比103・2%) 飼養管理、衛生管理を徹底し、発育向上に努めています。酷暑の影響により平均分娩月齢が24・5ヶ月から24・7ヶ月となっていました。また、小林放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営が出来ます。

七. 経営管理

事業管理費は、人件費並びに旅費交通費、施設費等が減少し、計画を下回ったことから

3億5039万円(97・1%)の実績でした。

(株)酪農とちぎアグリサポート

酪農とちぎの子会社である(株)酪農とちぎアグリサポートの事業運営状況は、まず、ふれあい牧場の運営支援については、順調に遂行しております。受託事業については、受託面積が増え、計画を上回りました。(計画比106・3%) また、人的支援(オペレーター等)の要望も多く計画を上回りました。しかし、収支実績については、天候不順による作業の遅れから外注し作業を進めたことにより外注作業費が増え、計画を下回る実績となりました。



那須高原支所

「みちのくの旅」蔵王・山形

視察研修を開催

10月28～29日、女性会那須支部（竹内禮子支部長、参加者16名）では、蔵王・山形方面へ研修を行いました。はじめに訪問したのは、宮城県蔵王酪農研修センターです。消費拡大のため、団体向けの講習会も行っており、今回は「チーズの食べ方教室」を実施していた



女性会那須支部の皆さん



チーズの食べ方教室

いただきました。講師は、同センターチーズ製造部門担当の佐藤氏にお願いし、ゴーダチーズの「いももち」、さけるチーズの「大根サラダ」、パニールチーズの「混ぜご飯」と盛り沢山でした。どの料理も時短で作成できるものばかりで、特に「いももち」はおやつになると大変好評でした。研修後は更に足を伸ばし、山形名所の一つ銀山温泉へ宿泊となりました。千と千尋の神隠しのモデルにもなった温泉街を散策した後、宴会にて親睦を深め一日目の旅を終えました。

二日目は、まず宝珠山立石寺（山寺）1070段と言われる石段を登り、紅葉を一望し、その後山形

市の漬物店「香味庵まるはち」にて、漬物寿司を中心としたお膳料理を堪能しました。やたら漬けとは「やたらめった漬ける」が言葉元で、色々な野菜を混合して漬物にして食するといった風習が山形にはあり、食べやすさっぱりとした味付けが魅力でお土産に沢山購入されておりました。食事の後、熊野大社にて参拝しました。熊野大社には三匹のうさぎと言われる隠し細工があり、宮司さんが二匹目までは教えてくれるのですが三匹目は運を得るために自分で探すという試練を与えられ、皆さん一生懸命三匹目のうさぎを探していました。山寺は悪い縁を切るところ、熊野大社は良い縁を結ぶ場所と言われます。悪い縁を断ち切った後、良い縁が舞い込むようにしっかり祈願して来ました。

山形と言えばラ・フランス、ワインが特産で、巧妙な香りとみずみずしい旬のラ・フランスを試食し、お土産に箱買いでバスの荷台もいっぱいになりました。皆さん非常に満足されて、師走の時期を前に、ゆっくりと秋の紅葉、味覚を堪能し旅の帰路につくころには心いっぱい満たされほっこりとしておられました。

わくわく！小学生が

牧場で搾乳体験

11月14日、秋晴れの空の下、那須塩原市青木の人見二三夫牧場（青年部黒磯支部長・人見泰弘さん宅）において、地元青木小学校3年生を対象に搾乳体験を開催しました。この行事は、酪農とちぎ青年部黒磯支部青木地区と小学校が連携し、市の基幹産業である酪農について、子供たちの理解を深める機会として毎年青年部員の牧場で実施しています。今年は17名の生徒が来場し、今日の日をととても楽しみにしていた様子ではしゃぎつつも、牧場主の人見さんからの始めの挨拶では、牛と触れ合う時



わくわくの搾乳体験



の約束事を真剣に聞いていました。

搾乳体験の前に、牧場内を見学して頂き、小さな子牛が搾乳牛としてとても大きく成長することに大変驚いている様子でした。

メインイベントの搾乳体験では、関東生乳販連所有の搾乳体験車で一人一人順番に搾って頂き、順番を待っている間、子供たちはワクワクドキドキで待ちきれない表情でした。

また、搾乳体験が終わったらバター作り体験にチャレンジして頂き、なかなか出来ずに時間がかかったお子さんもいましたが、最後は全員バターを完成させ、出来た時は満面の笑顔になりました。そして、出来たバターはクラッカーに付けて美味しく味わって頂き、とても喜ばれました。

最後は、牧場主の人見さん、青年部員の皆さんに元気いっぱいのお礼の挨拶をして体験を終了しました。

青木地区青年部の皆様の活動により、今年も子供たちには楽しい秋の思い出を作ってもらおう事が出来たと思います。また、今回の体験をきっかけに、酪農について理解を深め、国産牛乳・乳製品の消費拡大の一助になったことと思います。ありがとうございました。

女性会塩原・西那須野支部

視察研修を開催

女性会塩原・西那須野支部（中村典子支部長）は、11月15日に15名の参加のもと、那須烏山市の黒尾牧場にて視察研修を行いました。

黒尾牧場ではフリーストール牛舎・搾乳ロボット形態で搾乳牛と育成牛合わせて約95頭を飼養しています。参加者の中には搾乳ロボットを初めてみる方も多く、つなぎ牛舎からの移動の苦労話やロボットでのメリット・デメリット等、積極的に質問しておりとても勉強になりました。

牧場視察後は、道中の色鮮やかな紅葉を見ながら益子町へ移動



女性会塩西支部の皆さん

し、益子カントリークラブにてバイキングでの楽しい昼食をいただきました。ながら歓談し、親睦を深められました。

宇都宮支所

女性会塩谷支部研修会を実施

女性会塩谷支部（加藤京子支部長）では、11月8日に6名参加のもと、埼玉県川越市にて研修会を実施いたしました。

川越は小江戸と呼ばれ人気の観光スポットで、複雑な形状のままの城下町の道や、歴史的建造物、蔵造りの街並みは、重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

その街並みにあるガラス工房で一輪挿しを作ってきました。工程は、初めにガラスに混ぜる色を選び下玉と呼ばれる溶けたガラスを竿先に巻きとった物に選んだ色を



女性会塩谷支部の皆さん

付けます。次に形を整えてから大きなストローで空気をいれながら膨らませます。その後でハンシと呼ばれる道具で口のくびれを作り、ガラス玉を下にして左右に振りながら伸ばして、底の部分を作り完成です。皆さん初めての体験でしたが、出来栄も良く楽しく体験することが出来ました。

短い時間ではありましたが、街並みの散策、美味しいサツマイモミニ懐石と研修会に参加された皆さんが楽しい時間を過ごし、支部員同士の親睦を深められリフレッシュ出来た有意義な一日となりました。

青年部で恒例の搾乳体験

本年度は、関東生乳販連所有の搾乳体験車により、塩谷支部（山本訓支部長）にて実施いたしました。

11月13日に、矢板市の「こどもの森こころ保育園」において、年長さんの32名が体験されました。搾乳補助は、宇河今市支部員の協力を得ながら6名の青年部員が対応し、園児たちは大喜びで牛に触れ、乳搾りを楽しみました。

同保育園での開催は今年で6年目となり、今では先生や父兄の方からも、卒園アルバムを飾る思い





熱心にお話を聞く園児たち

出として親しまれており、今後も継続していく予定です。

以上、各青年部活動により、酪農の理解を深める事が出来ました。

県南支所

芳賀地域酪農女子会懇親会を開催

10月23日、紅葉には少し早かったものの、自然豊かな森の中にたずむ「森のレストラン」(益子町)において、第1回目の芳賀地域酪農女子会の懇親会が行われました。

芳賀地域では、女性会は活発な活動を行っています。若い女性



芳賀地域の仲間と共に

後継者やお嫁さん等の交流の場が少なく、常々懸念材料となっていました。

そこで、この女子会の立ち上げを計画し、女性会役員の協力も得ながら会員を募り、15名のメンバーにて発足の運びとなりました。

今回の懇親会は、11名のメンバーと、世話人である女性会芳賀支部長の小林峰子さんが参加され、賑やかな中での開催となりました。

最初に自己紹介を行い、お互いの顔と名前が一致したところで、酪農への取り組み方や子育て等共通の話題もあり、あっという間に和気あいあいと会話が弾み、楽しいひと時を過ごされました。

今回は、新年会を兼ねて1月に

開催予定です。当女子会では、「仲間」を常時募集しております。興味がありましたら、支所までお問い合わせください。

腰痛予防の研修会を開催

11月6日、芳賀地域と河内南部・下都賀地域による2地域酪農組合合同研修会を県南支所にて開催し、44名が参加されました。今回は、健康をテーマに腰痛予防の研修会を行い、新上三川病院院長の大上仁志先生の講演と、同病院リハビリテーション科3名(理学療法士)の方々による、予防体操の実践指導を受けました。

まず、大上院長先生より「腰痛疾患の手術適応と保存療法」と題し講演され、腰椎の構造や疾患(ヘルニア・狭窄症・圧迫骨折)及び、命に係わる腰痛等について、画像を用いて分かり易く説明して頂きました。

続いて、「自分で出来る腰痛チェックと予防体操」について、病院スタッフ3名より指導を受け



大上院長先生による講演

ました。まずは、腰痛の原因チェックとして「前屈」の実施。床面に手が付かない場合、その原因として太もも後面が硬いためか、又は腰背部の硬さからなのかを確認し、その状況に応じたストレッチを指導して頂き実践しました。また、酪農作業中での良い姿勢のポイントも説明頂き、とても有意義な研修会となりました。

なお、当日は支所事業として花の苗配布を行ったほか、研修会前に「消費税の軽減税率制度導入に係る乳代精算書の様式変更」について、説明を行いました。



腰痛予防体操



部課だより

生乳受託課

令和元年10月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し99・6%（1万9135t）とほぼ前年並みに回復してきました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2596t（前年比99・7%）、宇都宮支所2370t（同97・2%）、県南支所4168t（同100・7%）となり、出荷者数は、前年同月より21戸減の389戸（内、学校は1校）となりました。

10月度の組合平均乳質は、脂肪率3・79%（前年差+0・03%）、無脂固形分率8・77%（同▲0・02%）、体細胞数22・51万（同▲0・02万）と昨年並みの乳質となりました。

関東生乳販連の10月総受託乳量は8万3469t（前年比96・9%）となり、28ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

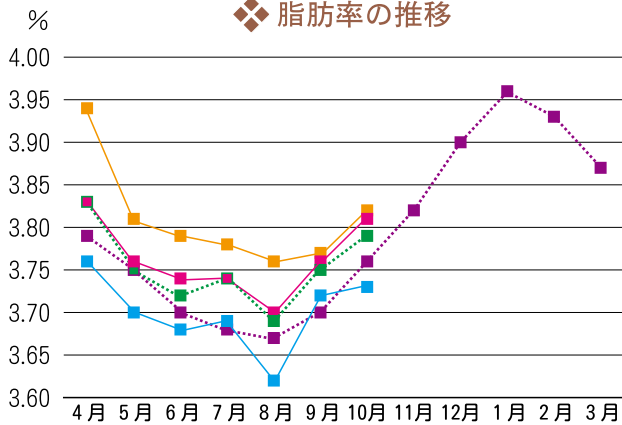
用途別の販売数量は、飲用牛乳向けは受託乳量前年比並みの96・7%、はっ酵乳向けが100%台に推移したこともあり、脱粉・バター等や生クリーム向けが90%

と減少しました。8月の全国の生産量は、北海道が前年比101・9%と8ヶ月連続し前年を上回り、都府県は97・6%と低迷し49ヶ月連続前年を下回りましたが、全国の生産量は100・0%となりました。尚、令和元年10月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりです。

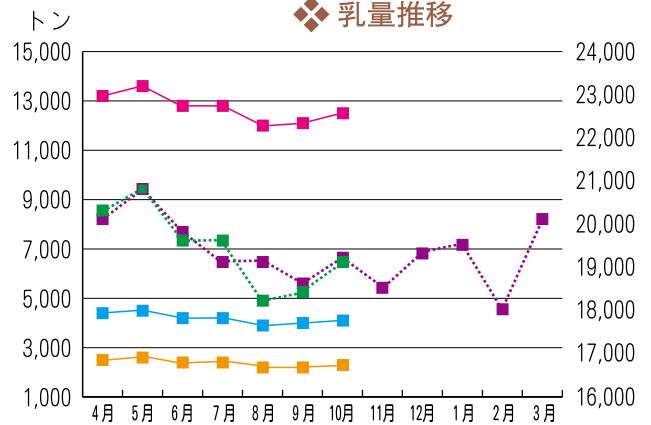
令和元年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	67,063,552	69,378,539	96.7	466,527,582	484,734,317	96.2
（うち学校向け）	12,370,619	12,733,907	97.1	64,800,429	67,017,026	96.7
はっ酵乳向け	12,541,543	12,471,590	100.6	89,290,541	88,982,746	100.3
脱粉・バター等向け	2,624,986	2,913,355	90.1	36,233,029	37,915,924	95.6
（うち委託加工向け）	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,174,829	1,305,688	90.0	8,617,032	9,867,437	87.3
チーズ向け	64,639	66,154	97.7	459,954	467,916	98.3
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	83,469,549	86,135,326	96.9	601,128,138	621,968,340	96.6
脱粉・バター等向け比率	3.14	3.38	-	6.03	6.10	-

◆ 脂肪率の推移

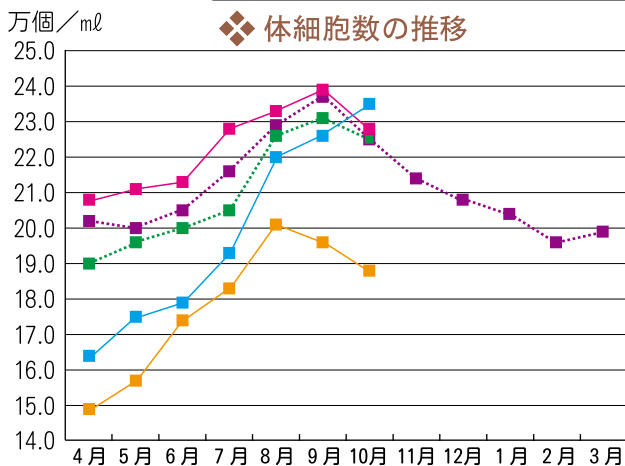


◆ 乳量推移

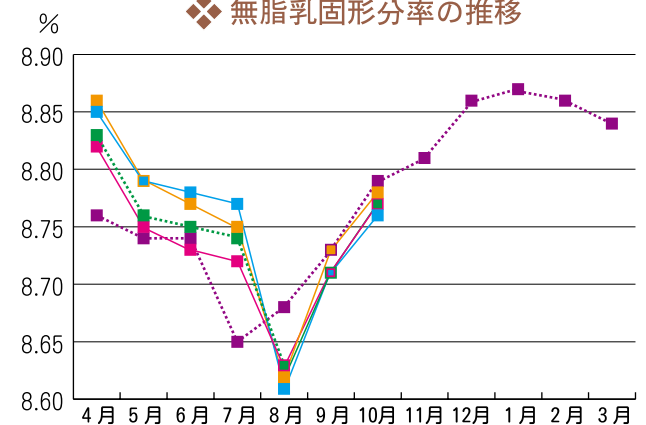


■ 那須高原 ■ 宇都宮 ■ 県南 ■ 令和元年度 ■ 平成30年度

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



理事会だより

9月度理事会（9月30日）

報告事項

- (一) 組合員の加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 関東生乳販連情報について
- (六) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (七) 子会社の資金借入について
- (八) 組合と理事との契約について

協議事項

- (一) 8月度事業実績について
 - (二) 規程等の一部改正について
 - (三) 組合と理事との契約について
 - (四) 固定資産の取得について
- (三) 組合と理事との契約について
- (二) 組合資金貸付について
- (一) 業務経過報告について

10月度理事会（10月31日）

報告事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合と理事との契約について

- (四) 組合プール乳価について
- (五) 特別管理未収金の報告について
- (六) 台風19号の被害状況について
- (七) 子会社の上半期事業実績について
- (八) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について
- (二) 義援金の協力について
- (三) 固定資産の取得について

お礼

『台風15号及び19号に係る酪農経営復興支援義援金のお礼』

酪農家の皆様よりご協力いただきました義援金は、被災された酪農家の復興のための資金として関東生乳販売農業協同組合連合会に送金しましたのでご報告致します。

酪農家戸数 240戸

義援金額 167万6千円

ご協力有難うございました。

お知らせ



《年末・年始の業務体制》

年末年始の業務は左記のとおりに対応いたします。

- 12月29日(日) 生乳受入業務
- 12月30日(月) 生乳受入業務
- 12月31日(火) 生乳受入業務
- 1月1日(水) 生乳受入業務
- 1月2日(木) 生乳受入業務
- 1月3日(金) 生乳受入業務

※尚、抗生物質残留検査等は通常通り実施します。

【連絡先】

那須高原CS

TEL 〇二八七―六四―四一七七

宇都宮検査室

TEL 〇二八―六六―〇二二一六

※本所・支所・各事業所は年末年始の休業とさせていただきます。

※又、年末12月28～29日及び、年始1月4～5日は、(出、回)となっておりますので、飼料等の残量をお確かめの上、ご注文は早めをお願い致します。

10月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円 (税込)]

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	10月8日	629	377	59.9%	728	101	63	902
釧路	10月9日	317	215	67.8%	741	23	20	844
根室	10月10日	502	355	70.7%	715	28	16	933
豊富	10月17日	373	260	69.7%	735	8	7	851
北見	10月23日	410	245	59.8%	701	5	1	663
十勝	10月24日	733	480	65.5%	676	110	81	808
根室	10月31日	371	261	70.4%	733	34	25	947
合計		3,335	2,193	65.8%	718	309	213	850
前月		2,861	1,885	65.9%	738	262	175	848
前年同月		2,168	1,662	76.7%	902	235	186	1,108

初妊牛の今後の動向は2～3月分娩が中心となります。秋口から初妊牛相場が弱含みで推移し、ここ数年で一番の安値となりました。初妊牛相場自体は軟調傾向になっていくものの、上・中クラスの初妊牛は安定した相場を維持している状況です。今後春分娩の牛が上場される季節になり、引き合いが強まることも考えられますので、全体としては概ね横ばい～やや弱で推移するものと思われれます。導入を希望される方は臍条件・分娩月によって手に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

10月度 県内家畜市場成績 [単位：円 (税込)]

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(10/30)	ホルス雄	152	65	159,500	2,310	100,716	6,941
	F1雄	121	118	398,200	24,200	281,758	828
	F1雌	95	61	293,700	58,300	205,422	21,355
館林(10/27)	ホルス雄	5	93	136,400	102,300	118,800	118,800
	F1雄	5	100	400,400	279,400	340,560	▲13,168
	F1雌	5	95	325,600	303,600	309,320	▲23,320

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、概ね横ばい～やや強含みで推移しています。7月以降弱含みで推移している那須市場F1(雄)平均価格相場は、9月25日に2019年の最安値を記録(262千円)をつけています。その後価格は回復に転じ現在270～290千円で推移しています。例年年末～春前にかけて価格は軟調傾向となる事が多く、概ね横ばい～やや弱含みで推移するものと思われれます。館林市場では成立頭数が少なく回ごとに値動きを繰り返しながらも、概ね那須市場と似たような形で推移していくものと思われれます。

